

2010年度 自己点検・評価報告書

(重点項目：学生の受け入れについて)

昭和女子大学

昭和女子大学短期大学部

本学の自己点検・評価実施体制について

昭和女子大学では、自己点検・評価実施委員会規程および自己点検・評価実施小委員会規程に基づいて、毎年自己点検・評価を実施している。

実施対象は大学部門の教員組織、事務組織すべてであるが、とくに毎年重点的に行うテーマ・部署を決めて自己点検・評価実施計画を策定し、そのテーマに基づいて自己点検・評価実施委員会で自己点検・評価を行い、その結果を公開することになっている。

評価基準は、(財)大学基準協会の評価基準に準拠している。

年度	重点的に実施する評価項目(部署)
2010 年度	■学生の受け入れ(アドミッション部、アドミッションセンター)
2011 年度	■教育研究等環境(副学長、図書館、事務センター) ■社会連携・社会貢献(学長室)
2012 年度	■学生支援(学生部、学生担当、キャリア支援部、キャリア担当)
2013 年度	■教員・教員組織(副学長、研究科、学部) ■教育内容・方法・成果(研究科、学部、教務部)
2014 年度	■事務組織(4センター、学長室、学園本部) ■財務(財務部) ■管理運営(学長室、総務部) ■内部質保証(学長室、FD推進委員会)
2015 年度	■全体プレ実施 (認証評価申請プレ)
2016 年度	■全体実施 (認証評価申請用)
2017 年度	☆認証評価申請

※ 各年度で実施した自己点検・評価の結果に基づく「改善の方策」について、次年度に検証を行う。

※ これとは別に、認証評価の結果、大学基準協会から指摘を受けた事項については別途検証を行うものとする。

2010 年度「学生の受け入れ」

部署：アドミッション部、アドミッションセンター

【到達目標】(数値や到達時期など具体的な計画)

本学ならびに研究科・専攻・学部・学科の理念、教育目標を理解し、それに適合した入学者を確保するとともに、適正な入学者定員の管理を行う。

また、上記目標を達成するためにアドミッション企画会議で新しい企画を立案し、広報活動を展開する。

1.現状の説明(データ等に基づく客観的現況)

■学生の受入方針を明示しているか

学生の受け入れ方針は、大学・短大ならびに大学院の入学試験要項、WEB サイトで明示している他、入学案内（パンフレット）においても各学科の目的と合わせて受験生に理解できるよう掲載している。

入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示については、大学・短大の AO 入試、推薦入試に入学準備教育を課すとともに一般入試 A 日程合格発表から、「入学準備ブログ」を開設し、各学科ごとに入学までの準備、推薦図書等を伝えている。

障がいのある学生の受け入れについては、入学試験要項に事前相談が必要なことを明記し個別に対応している。

■学生の受入方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜が行われているか (学生募集方法、入学者選抜方法の適切性。入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性)

2010 年度については、例年のとおり学生募集、入学者選抜とも適切に行った。

大学・短大・研究科の共通事項として、本学志望者の受験、入学の機会を適切に与える目的で、災害救助法適用地域で本学が指定した地域の志願者に対し、検定料の免除、被災状況により入学金免除、学納金の減免等の特別措置を行っている。3/11 に発生した大規模震災についても、被災した志願者ならびに家族への支援、教育的な配慮から他の災害と同様に実施した。

①大学 ②短大

学生募集に関しては、大学案内、学生企画による情報誌「SJ マガジン」、WEB サイトで情報を提供している他、本学が開催するオープンキャンパスや Class Visit(授業見学)、地区

懇談会、学外で開催される進学相談会、高校内相談会をとおして、受験生に対し説明を行った。また、高等学校に対しても、高校訪問、指定校説明会、高校説明会で本学の概要、紹介、入試の説明、情報の提供を行った。附属校については、説明会、体験授業を実施し、本学ならびに学科の概要と魅力を紹介した。本年度はアドミッション企画会議の新しい企画として、「本学の様子や本学がどのような学生を育成したいか」を広報するために、学生の自主的な活動を支援し、それを広報した。初年度は、環境デザイン学科の学生有志を中心とした団体(呼称：IPY)を立ち上げ、支援するとともに本学内で自主的な活動をしている学生団体を紹介するWEBサイト「bloom mirai」を立ち上げ広報をした。次年度も学生を主とした活動を支援していく。

オープンキャンパスの来場者数は、AO入試の定着以降増加している。しかしながら本年度は、受験生へ配布しているアンケートによる調査では、若干昨年度を下回った。オープンキャンパスについては、学園内の取り組み(業務改善プロジェクト)で提案があった内容を検討し、次年度実施を決定した。広報全般について、アドミッション部、アドミッション企画会議だけのアイデアでは限界があるため、広く学内の意見を吸収し企画する体制を整えた。

入学者選抜に関しては、WEBサイトで本年度の変更点を掲載、各入試に関し本学ならびに各学科の受入方針に合う選抜方法を行った。

AO入試では、AO入試のためのアドミッション・ポリシーを明示するとともに、実施する学科毎に特色を出した一次選考、二次選考を実施した。指定校制、公募制、光葉同窓会推薦入試では、全体の高等学校の評定平均値の他、学科毎に履修基準、成績等の条件を設定し出願基準とした。選抜方法についても、学科毎に小論文や適性テストを行った。AO入試ならびに推薦入試では、面接を重視し、本学ならびに学科に合う学生を選抜した。推薦入試において前年度まで高校生活におけるスポーツ等の実績に関して基準が曖昧であった。本年度からは、出願前に書類申請および審査を実施するようにし、受験生に手続き上の不公正感が発生しないようにした。入学予定者の学力を担保し、さらなる向上を促すためにAO入試ならびに推薦系の入試では、学習意欲の維持と入学後すぐ専門教育に入れるよう、入学準備教育を実施した。短大のAO入試については、今年度文部科学省の取り決めに沿い、8月以降出願としたが、選考方法については書類審査と面接のみとなっていることから、次年度に学科の適性や学力を判定する選抜方法を立案するよう依頼した。

一般入試では、学科の特性に合った試験科目(センター型の入試では、大学入試センター試験の採用科目)を設定し選抜した。実施については、公平性と受験生の不利益を回避するために、「危機管理マニュアル」を改訂した。3/11の地震の対応として、翌日の3月期入試の試験開始時間を繰り下げて実施するとともに受験生の受験機会を確保するため、別日程(3/21)を設定した。その後も余震が続く可能性が高かったため、当日は、「危機管理マニュアル」の地震対応を参考に試験監督に別紙で試験時の地震対応を配布し周知した。

判定は、二つの入試の受験者に不公平がないよう考慮し行った。今回の経験をもとに、「危機管理マニュアル」の再検討を決定した。

また、本年度から A 日程試験の地方試験会場において、問題管理のリスクを軽減するために往路の入試問題輸送を専門業者に委託する方法に変更した。しかしながら、委託した輸送会社の体制ならびに仕様等の問題（配送営業所の体制が整っていない。情報が共有できていない等）もあり、次年度は輸送会社を見直すこととした。

その他、附属校学内推薦、私費留学生、飛び入学制、編入・転入・学士、専攻科の各学内推薦、一般入試についても、各学科の受け入れ方針に合う出願基準、選考方法で実施した。

入学者選抜の透明性については、入試結果と一般入試の出願速報、合格者（繰上合格を含む）を WEB サイトで情報提供した。また、同じく、一般入試、AO 入試、公募制推薦入試、光葉同窓会推薦入試について過年度の入試結果を WEB サイトならびに大学案内で情報提供した。指定校制推薦と附属校推薦の結果、入試毎の入学者数は情報提供ができていないため、2011 年 4 月からの情報公開に合わせて WEB サイトで公開するよう決定した。また、入学試験の成績開示については、一般入試（A・B・3 月期）不合格者の本人申請に対して行った。

③研究科

学生募集に関しては、大学院案内、WEB サイトで情報を提供している他、大学院独自のオープンキャンパスの開催、ならびに大学・短大が開催するオープンキャンパスでの相談コーナーを設け、受験生に対し説明を行った。

入学者選抜に関しては、入学試験要項を作成し、受験生に周知、各研究科ならびに専攻による出願基準、選考方法で適正に実施した。

入学者選抜の透明性については、WEB サイト、大学院の入学案内で前年度の入試結果を情報提供した。

■適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、収容定員を適正に管理しているか（収容定員に対する在籍学生数比率の適切性。定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応）

入学者定員の適正化は必要ではあるが、文部科学省の指導により平成 25 年入学者まで定員変更申請ができない状況である。

①大学

入学者定員に関しては、未充足はなく、年により大きく定員超過を起こしている。昨年度は、厚生労働省の指導を受ける栄養系の学科も含め、大きく定員超過をおこしたため、本年度の入試については、是正をすべく一般入試の合格判定に熟慮した。入学者数の調整

ができるよう、データにもとづき最少の合格者数から、状況により補欠者を繰り上げた。

結果として、昨年度と比較し、全体として大幅な入学定員の超過は抑えられたが、学科によっては3月を過ぎ補欠者の繰り上げをすることになった。本年度の方法を検証し、次年度に対応をすることとした。

在学年次の途中入学者を募集する編入・転入・学士入学については、入学者の定員を管理栄養学科（8名）、健康デザイン学科（5名）で定め実施した。本学短大生を受け入れるため、定員を設けていない学科についても募集、入学者を出した。2010年度大学認証評価の申請における評価・指摘において、入学定員を定めていない学科が若干名で募集しているにもかかわらず、多くの入学者を出していることが指摘された。これについては、短大の定員変更、学科構成ならびにカリキュラム構成の変更により学部への編入学者年々減少している。本年度の編入学者は47名であり、改善しつつある。

②短大

短大への進学希望者が減少している中、入学者定員の確保は難しく、本年度は入学者の定員を充足できなかった。

専攻科については、短大の定員変更、学科構成ならびにカリキュラム構成の変更ならびに、専攻科への進学希望者の減少から入学者定員を充足できなかった。

③研究科

専攻毎に入学者定員を定めているが、2010年度は文学研究科、生活機構研究科とも定員が未充足であった。しかし、資料⑤にあるように、定員充足率は高めることができた。本年度から、生活機構研究科心理学専攻において、臨床心理士の資格認定を行う日本臨床心理士資格認定協会からの指導により、臨床心理講座について定員（12名）を設定し募集、選抜を行った。

■ 学生募集および入学選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施しているかについて、定期的に検証を行っているか。

①大学 ②短大

次年度の入学者選抜に関する計画を立案する際に検証のうえ改善点を出し、反映した。本年度は、志願者数、入学者の入学時の成績、入学後の成績等を検証し、次年度から大学AO入試Ⅱ期の廃止、センター型Ⅱ期入試の日程変更を計画した。また、短大AO入試において、文部科学省の指導に沿い適性テストを課すことにした。

③研究科

入学試験要項を作成する際に検証し、次年度分に反映した。

2.点検・評価(点検は現状と到達目標の照合、評価とは現状に対するデータに基づいた評価)

①効果が上がっている事項

- ・入学定員を適正に管理できた。
- ・アドミッション企画会議で、学生の自主的な広報活動を支援するという新たな企画を立ち上げ実行、広報ができた。特に学生の有志団体(呼称：IPY)のキャンドルナイトでは、附属校園児、児童、生徒も参加し全学的なイベントとなり、学生団体による Twitter でも反響を得た。

②改善すべき事項

- ・指定校制推薦と附属校推薦の結果、入試毎の入学者数を公開していない。
- ・地方会場の入試問題輸送について、委託業者ならびに委託する内容と要件を再検討し、リスクを回避しなければならない。
- ・入学定員を適正に管理できたが、学科により 3 月後半の補欠者繰り上げを行わざるを得なくなった。
- ・短大の文化創造学科、専攻科が定員を満たしていない。
- ・短大 AO 入試における、学科への適性、学力を判定するための選抜方法を見直す必要がある。
- ・学生募集業務、入試実施業務を適正に行うため、教職員の負担軽減も含めた業務改善は必要である。

3.将来に向けた発展方策(実効性のある計画や手順)

①効果を上げる事項

- ・入学準備教育について、より高い効果を上げるために教育関係を扱う企業のプログラムを希望制、受益者負担で導入する。
- ・学生募集について、効果を上げている学生の有志団体(呼称：IPY)や学生が企画する大学情報誌「SJ マガジン」に加え、新しい学生の活動を支援するとともに、「本学の様子や本学がどのような学生を育成したいか」を一般にアピールする効果的な広報を展開する。
- ・オープンキャンパスについて、学園内の取り組み（業務改善プロジェクト）から提案があった学生スタッフの組織化と教育、学生による会場内のシンボル制作を実現し、オープンキャンパスにおける本学のイメージを向上させる。
- ・短大 AO 入試について、本学ならびに他大学の入試との併願を可とし、より多くの志願者を募る。選抜方法では学科の適性、学力を判定する選抜を実施する。

②改善する事項

- ・大学の情報公開に合わせ、全入試の入試結果、入試毎の入学者数を公開する。

- ・大学・短大の一般入試の入学者管理について、本年度効果があった手順ならびに改善すべきポイントを再チェックし、次年度の入試用に再構築する。
- ・地方会場試験の問題郵送のリスク回避を目指す。
- ・学生募集業務、入試実施業務を適正に行うため、事務職員、教員の業務を把握し、業務体制を再構築する。また、入試実施において教職員の負担軽減とリスクを回避するため、従来の実施方法を見直すとともに、アウトソーシングも含めた新たな実施方法を計画する。

自己評定

A

この自己点検・評価結果は、2011年6月23日(木)に開催された自己点検・評価実施委員会で承認されました。

自己点検・評価実施委員会メンバー

委員長 坂東 眞理子(学 長)
金子 朝子 (副学長 自己点検・評価実施小委員長)
小原 奈津子(副学長 自己点検・評価実施小委員長)
岸田 依子 (文学研究科長)
森高 初恵 (生活機構研究科長)
山本 暉久 (人間文化学部長)
志摩 園子 (人間社会学部長)
芦川 智 (生活科学部長)
太田 鈴子 (短期大学部長)
江中 里子 (総合教育センター長)
吉田 昌志 (教務部長)
猪熊 雄治 (学生部長)
金尾 朗 (アドミッション部長 アドミッションセンター長)
増澤 史子 (キャリア支援部長)
畑原 寿俊 (学長室長)
福住 真由美(教育支援センター長)
武藤 空男 (キャリア支援センター長)

以上

昭和女子大学